

函館ソーシャルクリニック

地域プロジェクトⅢ・Ⅳ

「外国人にルーツを持つ児童のための遠隔による日本語学習支援プロジェクト」
 及び 地域プロジェクトⅠ・Ⅱ
 「外国にルーツを持つ児童の日本語学習支援プロジェクト」について

北海道教育大学函館校
 准教授 佐藤香織

地域プロジェクトⅢ・Ⅳ「外国人にルーツを持つ児童のための遠隔による日本語学習支援プロジェクト」及び地域プロジェクトⅠ・Ⅱ「外国にルーツを持つ児童の日本語学習支援プロジェクト」(担当教員:佐藤香織)では、昨年度まで継続して行っていた小学校での対面での日本語学習支援に加え、2020年度は、日本語学習及び教科学習の助けとなる「動画教材」の作成を行った。プロジェクトメンバーは、地域プロジェクトⅢ・Ⅳが4名、地域プロジェクトⅠ・Ⅱは9名である。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、学生達が小学校に直接日本語学習のサポートに行くことができない時期も多くあった。そのため、その期間はそれぞれの児童の日本語レベルや学習内容に合わせた動画の作成を行った。

本プロジェクトの学生達は、まずは動画の作成や編集の仕方について学ぶことから始め、楽しみながらわかりやすく学べる動画にするために、アイデアを出し合った。最初に完成した動画教材は「『～でもいいですか』の練習」と「『～がいたいんです』の練習」の2つである。それぞれ、2名の児童(フィリピンルーツ、インドネシアルーツ)を対象としている。動画の長さは15分ほどで、文法や語彙を理解し、実際に発話をする練習が楽しく行えるように工夫をした。

実際に当該児童に動画を見せたところ、興味を持って取り組む様子が見られた。学校現場や

日本語学習支援者からは、「児童が趣旨を理解し動画を見ながら会話練習をすることができた」「語彙や場面も配慮されている」と高い評価を受けた。

これらの支援は外国人児童の授業理解の促進はもちろんのこと、特別な配慮が必要な児童の指導にも応用できるため、支援から得られた知見を教員養成教育の中でも積極的に活用していきたいと考えている。

本プロジェクトの取り組みは、NHK函館放送局「つながる！フレッシューズ」で紹介されたほか、文部科学省の「グッドプラクティス」に選出された。



取材撮影の様子